

東京都小中学校環境教育研究会会報

東京の青い空 第67号

会長 棚橋 乾 多摩市立連光寺小学校 TEL 042-373-1920

事務局長 中村 太朗 江東区立辰巳小学校 TEL 03-3521-1164

HP <http://kankyokyoiku.jp>

コロナ禍だからこそ持続可能な社会づくりをめざす教育 ESD

～将来への準備ができる児童・生徒の育成をめざして～

東京都小中学校環境教育研究会長
多摩市立連光寺小学校長 棚橋 乾

コロナ禍の中、小中学校では感染防止の取り組みと共に、授業時数の確保や行事の中止など、これまでにない対応に追われています。社会全体としては、感染防止と経済の両立をめざしていますが、第3、4波が気がかりです。世界全体では依然として感染者の増加に歯止めはかかっていません。安全な日々が戻り、児童・生徒が自己の将来や社会の未来に目を向けた学びや活動が十分にできる学校に早く戻りたいところです。

今後は、混乱やリスクが増えると言われていきます。社会や環境の変化に教育はどのように関わることができるのでしょうか。これまで学校教育では、様々な知識や技能を身につけるだけでなく、思考し判断することや、意見を交わして思考を深めたりする認知能力の育成。そして、学ぶ意欲や協調性、公正さ責任感など情意に関わる資質の育成を図りますと説明してきました。どれも重要な資質・能力です。しかし、これからは問題を自分事として捉え、思慮深くクリティカルに思考し、問題解決の方策を練り上げて実行する力、持続可能性への意識の育成も必要です。指示されたことを鵜呑みにする思考停止では、何も解決できるようになりません。小中学生が現代的な課題に働きかけることは難しいかもしれません。しかし、出来る事に取り組む事は、持続可能な社会づくりに

向けた活動に取り組む大人に成長する第一歩です。子供の心に種を蒔くのは今です。

そのためにも、児童・生徒が主体的・協働的に、現代的な課題に取り組む学習や活動の充実を図ることが必要だと言われています。これは、教師が敷いた線路の上を歩む学習ではなく、児童・生徒自身が地図とコンパスをもって旅をするような学びです。指導方法として、探究学習×SDGs＝ESD と考えるのが分かり易いのではないのでしょうか。また、総合的な学習の時間の学習だけでなく、委員会活動などの特別活動も加えた学校生活全般で、取り組むことも欠くことができません。

そして、これまで教育の成果目標とされてきた自己実現を図ること、つまり社会で自己の良いところを発揮して活躍することについても、これからは自己実現+持続可能性となっていくでしょう。あって当たり前だった環境、社会や経済の秩序が崩れると、可能であったはずの自己実現も図ることはできません。

教育は子供たちと社会の未来のためにあります。そして我々教員は、教育によって持続可能な社会づくりに関わることができます。教育者としての意識転換はできているのでしょうか。将来のために、持続可能な開発のための教育 ESD や SDGs の学びに取り組みましょう。

令和2年度東京都小中学校環境教育研究会総会報告

令和2年6月15日(月)、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、紙上にて東京都小中学校環境教育研究会総会を開催しました。議事として、令和元年度事業報告、決算報告、会計監査報告、新役員承認、令和2年度事業計画案、予算案、研究計画案について審議し承認されました。

◆令和元年度事業報告

- 1 令和元年度総会 6月7日
杉並区立浜田山小学校(校長 伊勢 明子)
- 2 研究部の活動の充実
 - ・動物園研修会(6月22日) 上野動物園
 - ・発電所見学会(8月8日) 磯子火力発電所
 - ・発電所見学会(10月26・27日)
奥只見水力発電所等
 - ・野鳥観察会(1月25日) 葛西臨海公園
(荒天のため中止)
 - ・授業実践と事例研究
- 3 全国小中学校環境教育研究会と連携
 - (1) 第51回全国小中学校環境教育研究大会
(千葉大会・11月21日)
富里市立根小名小学校(校長 岡 清志)
 - (2) エネルギー研修会・施設見学(7月26日)
東京ガス豊洲スマートエネルギーセンター
- 4 第55回東京都環境教育研究会発表会
(2月7日)
町田市立南成瀬小学校(校長 鯉坂 映子)
- 5 研究紀要第30集の発行
- 6 会報「東京の青い空」第65・66号発行

◆令和元年度決算報告

1 収入

項目	予算額	決算額	適用
繰越金	602,196	602,196	H30年度繰越
分担金	850,000	917,000	1校1000円等
研究奨励費	160,000	160,000	都教職員研修センター
研究助成金	0	0	日本教育公務員弘済会
利子	0	9	2回分
計	1,612,196	1,679,205	

2 支出

項目	予算額	決算額	適用
総会費	30,000	30,000	総会要綱印刷代
会場費	60,000	70,000	研究会会場費
事務費	40,000	1,836	事務経費
研究費	450,000	292,750	集録資料学費
講演会費	150,000	68,640	講師謝礼
見学費	40,000	0	交通費補助
印刷代	250,000	132,660	機関誌代
通信費	40,000	24,165	送料代
全国大会費	450,000	550,000	全国総会運営補助
発表会費	100,000	0	運営費
予備費	2,196	0	
計	1,612,196	1,170,051	

差引残高 50,9154円は、次年度に繰り越します。

3 会計監査報告

上記の決算について監査により相違ないことを認めます。

令和2年6月5日

会計監査

東京都教職員研修センター 國分 重隆
府中市立教育センター 野澤 由美

◆令和2年度事業計画

- 1 令和2年度総会（6月15日）
紙上開催（新型コロナウイルス感染症対策のため）
- 2 研究部の活動の充実
 - (1) 研修会（★中止としたもの）
 - ・動物園研修会（6月20日）★ 上野動物園
 - ・自然観察会（10月31日）高尾山
 - ・野鳥観察会（1月23日）未定
 - (2) 授業実践と事例報告
- 3 全国小中学校環境教育研究会と連携
 - ・第52回全国小中学校環境教育研究大会
（東京都環境教育研究発表会と共催）
- 4 第56回東京都環境教育研究会発表会
（2月26日）
品川区立大井第一小学校（校長 藤森 克彦）
- 5 研究紀要第31集の発行
- 6 会報「東京の青い空」第67・68号発行

◆令和元年度予算

1. 収入

項目	予算額	適用
繰越金	509,154	平成元年度繰越金
分担金	850,000	分担金1校1,000円等
研究奨励費	160,000	都教職員研修センター
利息	0	
計	1,519,154	

2. 支出

項目	予算額	適用
総会費	30,000	総会要項印刷等
会場費	60,000	定例役員会、研究部会、研究員発表会費
事務費	30,000	事務経費
研究費	420,000	集録作成、研究資料費、環境教育学会会費、夏季研修費
講演会費	100,000	講師謝礼
見学費	30,000	研修会見学費、交通費補助

印刷・広報費	250,000	「東京の青い空」No.67～68 ホームページ更新料
通信費	40,000	通信 送料等
全国大会費	450,000	全国大会紀要作成補助 運営補助等
発表会費	100,000	都発表会運営費
予備費	9,154	
計	1,516,154	

◆令和2年度役員

役職	氏名	学校名	役職
顧問	竹田雄二郎	青梅市教育相談所	所長
会長	棚橋 乾	多摩市立連光寺小	校長
副会長	藤森克彦	品川区立大井第一小	校長
事務局長	中村太朗	江東区立辰巳小	校長
事務局次長	山口京子	杉並区立杉並第十小	校長
	鯉坂映子	町田市立南成瀬小	校長
	箱崎高之	調布市立北ノ台小	校長
研究・広報部長	關口寿也	多摩市立南鶴牧小	校長
研究・広報部副部長	鈴木 元	町田市立南成瀬小	副長
	石塚裕幸	足立区立竹の塚小	副長
	伊藤修久	多摩市立連光寺小	副長
	森田真好	多摩市立愛和小	副長
会計部長	福井みどり	墨田区立第三寺島小	校長
会計副部長	伊勢明子	杉並区立浜田山小	校長
会計監査	國分重隆	東京都教職員センター	非常勤
	野澤由美	府中市立教育センター	指導員
OB役員	富田 広	多摩教育事務所指導課	指導員
	杉本茂雄	前 中央区立坂本小学校	前役員
	宮原 元	品川区教育委員会学校地域連携課	コーディネーター
	根本美恵子	前 青梅市立第五小学校	前校長
	末吉潤一	元江戸川区立西小岩小	元校長
	邊見公子	前杉並区立桃井第三小	校長
	阿閉暢子	前多摩市立愛和小	前校長
	佐々木智津子	前中野区立鷺宮小	前副長

令和2年度 東京都環境教育研究会 活動計画

月	日	曜	開催会合	場 所	内 容
4	21	火	役員会1(★)	杉並区立杉並第十小	・役員、地区理事の確認 ・絵画コンクール企画説明 ・都総会、全国理事会の準備
5	15	火	都研究会総会14:00 全国理事会(総会前) (6月に書面開催)	杉並区立浜田山小	総会 昨年度報告と今年度計画、 名簿、紀要配布等 第1回全国理事会
5	20	水	絵画コンクールキック オフミーティング(★)		副会長・絵画担当出席
5	26	火	役員会2(★)	杉並区立杉並第十小	全国大会一次案内・分担金依頼準備
5	29	金	研究員1(★)	杉並区立杉並第十小	17:00～ 研究方針、研究予定
6	18	木	研究員2(★)	杉並区立杉並第十小	17:00～ 定例会
6	20	土	動物園研修会(★)		東京都立恩賜上野動物園
7	8	月	役員会3	杉並区立杉並第十小	全国大会要項骨子確認 分担金依頼発送作業
7	24	水	研究員3(★)	杉並区立杉並第十小	15:00～ 定例会
8	6	金	都:役員・研究員研修会(★)		地球温暖化防止研修会(予定)
8	20	木	現地見学会(★)	J-Power 主催	磯子火力発電所
8	21	金	研究員4(★)	杉並区立杉並第十小	15:00～ 定例会
9	4	金	役員会4	杉並区立杉並第十小	全国大会二次案内発送 東京の青い 空 編集
9	18	金	研究員5	多摩市立南鶴牧小学校	17:00～ 定例会
9	28	月	絵画コンクール審査会(★)	エコギャラリー新宿	審査会(協賛企業等、審査委員長:岡 本先生)13:30～
10	9	金	研究員6	杉並区立杉並第十小	17:00～ 定例会、 都・環境教育フォーラム準備(★)
10	19	月	役員会5	杉並区立杉並第十小	都・全国大会要項準備
10	31	土	自然観察会	高尾山	
11	10	火	役員会6	杉並区立杉並第十小	都・全国大会要項検討、準備検討 絵画コンクール表彰式準備(★)
11	13	金	研究員7	多摩市立南鶴牧小学校	17:00～ 定例会、都・全国大会準備
12	1	火	役員会7	杉並区立杉並第十小	都・全国大会要項完成、準備検討 絵画コンクール表彰式準備(★)
12	4	金	研究員8	多摩市立南鶴牧小学校	17:00～ 定例会、都・全国大会準備
12	5	土	絵画コンクール表彰式(★)	東京ビックサイト	
1	15	金	研究員9	多摩市立南鶴牧小学校	17:00～ 定例会、研究紀要原稿確認 都・全国大会準備
1	23	土	野鳥観察会	会場:未定	
1	29	火	役員会8	杉並区立杉並第十小	都・全国大会準備,研究紀要作成
1	31	金	研究員10	多摩市立南鶴牧小学校	17:00～ 定例会、研究紀要原稿確認 都・全国大会準備
2	19	金	研究員11	多摩市立南鶴牧小学校	17:00～ 今年度反省
2	26	金	第52回全国研究大会 第56回都研究発表会	セッション杉並	13:30～ 研究発表、基調講演 国谷 裕子氏
3	5	金	役員会9	杉並区立杉並第十小	令和2年度反省 令和3年度計画

(★)は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止としたもの

令和2年度東京都小中学校環境教育研究会研究主題**持続可能な社会づくりのための環境教育の推進**

～環境教育によって育む学力と環境保全意欲～

1 主題設定の理由

未曾有の幕開けとなった令和2年度である。言及するべくもなく、新型コロナウイルスの世界的蔓延は、私たちの市民生活、経済活動、衛生概念を根底から覆す事態を引き起こしている。第2波を含む長期的な戦いは避けられず、終息の絵地図が描けない状況である。コロナ前後で、世界の在り様が変わらざるを得ないと言ってよい。The day after に人類が不安を覚えている。

これまで東京都小中学校環境教育研究会は、人類の行き過ぎた社会活動が引き起こしてきた環境問題に警笛を鳴らし、持続可能な社会への改善を試みる教材化を進め、授業実践を重ねてきた。地球温暖化やフードロス、海洋プラスチック問題などである。これらに取り組む中で、私たちの実生活はどうであったろうか。授業準備を進めて授業実践を行う時、うだるような暑い夏の日の午後、日々の給食や恵方巻等の残菜を目の前に抱えた傍、行楽で河川や海に出かけた楽しい折、私たちは当然ながらその惨状に目を覆い、「それでも」「どうしても」何とかしなければと奮い立ち、突き動かされ、見えざるものに使命として後押しされて研究を進めてきた。しかし、滔々とした日常生活の中で、時にそれは途切れることもあった。授業実践で子供たちと思いを一つにできたと実感し、幾ばくかでも使命を果たせた高揚感を得ることがあった時にも、地球規模の温暖化や残菜や商店のペットボトルが大きく変化する筈もなかった。そればかりか、枯れ葉舞う季節になれば温暖化の意識は薄らぎ、日々の給食の完食に一喜一憂し、スポーツドリンクはペットボトルを手にはせざるを得なかった。地球自体や人類を脅かす環境問題は歴然としてそこに存在し、私たちもそれに関心を寄せてはいるが、季節や地域、時々でその体感や使命感に温度の幅があったことは否定できない。しかし、今世界を席卷している新型コロナウイルス、言うなればコロナ禍は、これまでの事象とまったく趣を異にする。すなわち、私たちが生活する上で、避けることのできない制約や制限、意識変革を生じさせていることである。季節や地域、時間に関係なくである。言い方を変えれば、環境問題に関する私たちの関心や意識の逃げ場を封じられた事態であると言える。新型コロナウイルスの発生原因や発生理由については、これから解析が進むとことであるが、急速に、そして秩序なく発展した人類の社会活動が未知の新型ウイルスを生む土壌を創り上げてしまったことは疑いの余地がない。このままでは持続可能

な社会はない、と、地球環境が誰にでもわかる刃を向けたのである。憂慮すべき現状に猶予はない。私たち東京都小中学校環境教育研究会は、温暖化対策をはじめとする持続可能な社会づくりに、教育は座しているだけではないとの意識をより強くもち、その克服のための実践をもって、2100年を生きる子供たちへの持続可能な社会づくりというパラダイムシフトを進めていかななくてはならない。そしてその活動を教育界をはじめとして広く伝播し、世界中の同じ志を抱く方々と手を取り合い、進めていかななくてはならない。これまで本研究会が取り組んできたESDは、その実現を可能にする希望であり手段となりうると信じる。新しい環境教育ESDにおけるねらいの設定、授業デザイン、指導方法などについてさらに広く深く確信をもって研究を進め、指導者側の意識転換と、児童・生徒の変容、日常生活の変革を図っていく決意である。

2 研究の方法

- (1) 役員定例会で理論構成を行う。
- (2) 本研究会で作成した「新しい環境教育」で示した児童・生徒の3つの能力・態度をもとに、研究部において社会や教育の在り方を問うとともに、授業実践を行う。
- (3) 東京都小中学校環境教育研究会の研究発表校や外部機関と連携をし、研究実践を深める。

3 研究の内容

《理論構成》

- (1) 環境教育やESDの優良事例を分析し、学校経営や授業の在り方について検討し、推進する。
- (2) 幼稚園・小学校・中学校の発達段階に応じた、学習活動のねらいや方法を研究する。

《実践研究》

- (1) 「新しい環境教育」の3つの能力・態度をもとにした実践を行う。
- (2) 環境教育やESDによる自己の変容について研究を深める。児童・生徒が自らの思いや考えを明確に意識し、その変容を捉えることができるように、ポートフォリオやイメージマップ等を取り入れた学習方法とその評価方法に関する研究を深める。
- (3) 令和元年度に実践した「脱プラ生活」について高学年モデルを研究・実践するとともに、その知見を広める。

第52回全国小中学校環境教育研究大会（東京大会） 第56回東京都小中学校環境教育研究発表会

東京都小中学校環境教育研究会では、全国小中学校環境教育研究会との共催で、標記の大会・発表会を開催いたします。つきましては、全国各地の小中学校、教育関係者をはじめ、多くの皆様のご参会をいただき、環境教育及びESDのさらなる充実と発展を図るべく、ここにご案内申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催内容等を変更する場合がございます。最新の情報はHP【<http://kankyokyoiku.jp/>】に掲載いたしますので、ご確認いただきますよう、お願いいたします。

21世紀「環境の世紀」の提言

研究主題

持続可能な社会づくりのための環境教育の推進 ～環境教育・ESDによって育む学力と環境保全意識～

1 日時 令和3年2月26日（金） 13時30分 ～ 16時30分

2 会場 セシオン杉並（杉並区社会教育センター・高円寺地域区民センター）
〒166-0011 杉並区梅里1丁目22番32号 電話番号 03-3317-6621
交通アクセス・東京メトロ丸ノ内線「東高円寺駅」徒歩5分

3 時程

13:30	14:00	14:20	14:40	14:50	16:20	16:30
受付	開会式	研究発表	休憩	講演		閉会式

4 講演 「持続可能な社会を考える(仮)」

元NHK クローズアップ現代キャスター 国谷 裕子 氏

講師プロフィール

学齢期はアメリカ合衆国、香港、日本を行き来しながら過ごし、ブラウン大学を卒業されました。NHK 衛星放送「ワールドニュース」や「クローズアップ現代」のキャスターを務めたのち、東京芸術大学理事、国連食糧農業機関(FAO)日本担当親善大使を務められていらっしゃいます。児童・生徒向け著書に「国谷裕子と考えるSDGsがわかる本」があり、SDGsの取材・啓発活動にも取り組まれていらっしゃいます。



5 参加費 1,000円(研究紀要代) ただし、全国会員は無料

6 主催 全国小中学校環境教育研究会 <HPアドレス <http://kankyokyoiku.jp/>>
東京都小中学校環境教育研究会 <HPアドレス <http://kankyokyoiku.jp/tokyo/>>

7 後援 文部科学省 環境省 東京都教育委員会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会
東京都公立小学校長会 東京都中学校長会 日本教育公務員弘済会東京支部
日本環境教育学会 ESD活動支援センター 関東地方ESD活動支援センター(申請中)

8 大会事務局 東京都 調布市立北ノ台小学校 校長 箱崎 高之
〒182-0011 東京都調布市深大寺北町2-41-1
TEL 042-485-1291 FAX 042-499-4182
E-mail: kitanodai-sho-kocho@chofu-schools.jp

9 申込み方法 上記ホームページ又はQRコードから参加申込フォームにアクセスしお申込ください。

